

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100035		
法人名	有限会社 サンセイ		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	静岡県富士宮市万野原新田3163-1		
自己評価作成日	平成22年8月17日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

壮大な富士山を眺めながら、利用者1人ひとりが自分なりの「明るく豊かに共に生きる人生」を送れるように職員が協力し合い利用者支援しています。広い共有空間に清潔で心地よい生活環境を整え、利用者の方々が安心して気持ちよく暮らせるようにと努めています。社外研修への参加と共に、社内研修も定期的を実施し職員の介護知識・技術の向上を図り、利用者の方々に敬意や思いやりの気持ちを抱いて対応に当たることの大切さを意識付けしています。地域住民に認知症に対する理解を深める取り組みを実践してしています。利用者のご家族との信頼関係・協同関係の構築に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=2292100035&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年9月8日		

富士山を目の前に眺め、ホーム施設回りに花壇やミニ菜園、ウッドデッキ等が配置され、広々として清潔感あふれる施設環境や落ち着いた居心地の良い居室が整えられている。ホーム長を中心に理念に基づいた「一人一人の思い」を大切にされた年度目標を掲げ全職員が一体となってホーム運営にあたっている。また、地域との交流関係作りにも積極的に取り組み市の窓口や地区長との協力を得ながら推進している。2ヶ月に1度のスタッフ会議を中心に利用者のケアや業務課題、研修や勉強会等が行われ活発な意見交換を通してチームケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業年度の替わる都度、全職員を対称に事業所の理念について研修会を実施、理念をホーム内に掲示し実践を心がけています	「一人ひとりの思い」を実現すべく、事業所理念を元に「人との信頼関係作り」を年度目標に掲げ全職員が一体となってその実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二月に1度、運営推進会議開催の際、町内会への参入を検討中、町内会長様の協力の下、市の広報誌等配布いただいています。買い物も地域内の商店を利用しています。	積極的に地域との交流関係の促進に取り組み、町内会長の協力を得ながら町内会への参加推進や、地域夏祭りや運動会の参加、中学生の福祉体験受け入れなどを通じて近隣住民との関係作りを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート講座開催時に、講師や実践報告など実施、同講座の開催を地域区役員に働きかけています。介護相談の電話等にも親切に応じています。自施設の見学等も呼びかけ常時見学を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二月に1度、運営推進会議を実施、ホームの取り組み、状況の報告を行なっています。地域の代表、家族の代表の参加を得、意見の交換・質疑応答等を実施しています。	2ヶ月に1度定期的開催され、地区長の協力を得ながら地域関係者、民生委員、市窓口の職員、家族代表等の参加の元にホームの状況や取り組み・課題・意見交換等の活発な交流が持たれている。	活発な話し合い意見交換の場となっているので、更に家族とのコミュニケーションを深めるためにも全家族への会議案内や会議報告書送付などの取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市職員に参加いただいています。市役所に出向き情報交換・協力の依頼を常にしています。	運営推進会議には市窓口の参加が得られ、事業所の状況報告や地域参加などの協力依頼などを通して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束について社内研修を実施し、「身体拘束はしない」を職員全員で実施しています。	身体拘束排除の理念構築・掲示、スタッフ会議などで繰り返し身体・言葉の拘束排除への話し合いがもたれ、玄関施錠解放を含め身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員研修実施し、身体的にだけでなく、言葉による虐待にも注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守ること、権利を侵害しないよう常に配慮しています。研修の機会があれば参加するようにしています。成年後見制度についてもご家族の必要や問い合わせに応じ説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や内容の変更については、事業所代表と管理者が、利用者ご家族と話し合いの場を設けて対処しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議には家族の代表に順番に参加していただき、ご意見やご要望をお伺いし運営に反映しています。また利用者のご家族がご意見・ご要望を述べやすいような信頼関係を構築するように努めています。苦情・ご意見箱も設置しています。	運営推進会議には順番に家族代表が参加し、要望や意見交換の場が設けられている。又、家族の来訪時や電話連絡、ご意見箱などを通して信頼関係を作りホーム運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2月に1度スタッフ会議を開催し職員の意見や提案を述べていただき検討し業務に反映しています。管理者は現場スタッフも兼ねており、日常業務の中でも意見・提案を話し合える環境を整えています。	2ヶ月に1度のスタッフ会議を中心に利用者のケアや業務課題、研修や勉強会等が行われ活発な意見交換を通してチームケアに取り組んでいる。又、業務外にもホーム長とコミュニケーションの機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価表を記入していただくと共に、代表者・管理者は客観的に職員1人ひとりを観察し総合的に判断しています。付加的な状況における努力に対しても報いるようにしています。職場環境・労働条件のにも配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修(研修費会社負担実施)への参加を積極的に促しています。スタッフ会議の際、社内研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の主催する研修会や交流会に積極的に参加するよう促し、他のホームの職員との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に面会・面接を実施、またアンケート用紙の記入をお願いし、本人の要望や意向を良く聞き、入所後も見守りやこまめな声かけを心がけ、安心感・信頼感を抱いていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、施設見学を兼ねてご家族と面会しお話を聞くようにしています。入所時のアンケートに、本人やご家族の希望の欄を設け記入いただいています。入所後も随時必用に応じ連絡を取り合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話、医療機関からのサマリー等を参考に状態をよく観察し、職員で話し合い、支援方法を見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」という意識を持ち、利用者の方々が出来ることは自分であろうという意欲をもって生活して行くように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「共に生活をする」という意識を持ち、利用者の方々が出来ることは自分であろうという意欲をもって生活して行くように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親族などに年賀状や暑中見舞い状を利用者と共に作成し送付しています。ご家族の協力を得ながら本人の希望に沿って、外出することもあります。	年賀状や手紙の交流支援や、利用者の思いを組んで家族の協力を得ながら馴染みの人や場所への関係を繋げる取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の意見を聞き、相互関係を観察・把握して席替えをしたりしてよい関係が保てるよう配慮しています。集団レクを取り入れ、互いにかかわる機会を持てるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必用に応じ、電話連絡・訪問などにより家族支援を実施しています。退所され他の施設に移られた方には面会に伺ったり、お便りをお送りしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応で、利用者1人ひとりの話を傾聴し、面会時にはご家族からも話を伺い、思い・希望・意向を知るように努めています。職員間で情報は共有し思いを叶える方向で話し合っています	職員は利用者の話や行動から、又、言葉の少ない人には家族や関係者からの情報をもとに話題を工夫したり、リラックスしている時などに聴いたりして思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に利用者についてのアンケートを記入していただくと共に、面会時に生活歴やこれまでの経過をお伺いし、情報収集・状況の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々にケア日誌を記録し共有すると共に、特記事項については口頭で申し送りを徹底し、全職員が現状把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用所一人ひとりの生活情報を得るため、本人の思いや、ケア担当者の意見を聞き、ケア日誌の確認やケア計画作成時ご家族の意見を聞き、本人が意欲的になれる目標を設定し、支援するよう計画を作成しています。	ケア担当者の意見やケア日誌を元に作成した業務記録を参考にしながら、利用者一人ひとりの現状を把握し介護計画を作成している。変化を見逃すことなくその都度、計画の見直しを行っている。	ケア担当者や家族の意見を確認しながら介護計画が作成され状況変化に応じた見直しも行われているので、更に定期的なモニタリングによる介護計画の見直しが実施される取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々に午前・午後・夜間とケア日誌を記録し、職員間で情報共有しながらケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の困惑や認知症状による様々な必要に柔軟な対応するようにしています。また、ご家族の要望や必要にも臨機応変にお応えするよに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の施設や利用者についての理解も深まってきており、暖かい目で見守りや気遣いを示して下さる地域の方々に感謝し大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医選択は入居者とご家族の意向を重視しています。受診は基本的にはご家族同行でしていただき、様態、状況は書面や口頭でお伝えしています。必用に応じ職員同行も実施しています。	大半の利用者は近隣の協力医院に受診している。本人・家族の希望するかかりつけ医への受診もできるよう連携し、家族・医師との情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の職員申し送りに必ず看護師も同席し、情報等を共有しています。また、看護師からもその都度個々の体調管理に関するアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は病院先に必要な情報提供すると共に、定期的に来院して、経過・様態をお伺いしています。退院時は退院後の注意点や今後についてお伺いする(書面・口頭)ようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の面会・面接の際、ターミナルケアの受け入れについてお伝えしています。重度化・終末期を迎えるにあたって、再度、ご家族等と話し合い、方針を決め支援しています。ターミナル受け入れに際し、協力医のご理解も頂いています。	本人や家族の意向を大切にしながら、重度化した場合や終末期に対して前向きに取り組んでいる。協力医や看護師・家族と連携し看取りも経験されており適切に対応している。	ホーム長や職員が一体となって終末期対応に取り組み、医療機関との連携も整えられているので、利用者・家族との同意書の確認や、対応マニュアルなどの整備が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応マニュアル・119番通報マニュアルを作成してあります。社内研修として2年に1回救急法の研修を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを作成し事務所・台所に掲示してあります。非難訓練・通報訓練実施しています。近隣の方々に災害時の協力をお願いしてあります。	定期的に通報・避難・消火等の訓練を行っている。全室ベランダへの避難が可能であり、具体的な誘導方法を把握している。ホームの存在が近隣の人々に理解を得られ、協力体制も築いている。非常用の備蓄も3日分程度確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議の都度、言葉使いや態度において入居者1人ひとりに敬意を払い尊重することやプライバシーの保護について思い起こし、日常の対応に気をつけています。ふさわしくない態度や言葉使いはその都度注意を促しています。	日頃敬意を払うことの意味を話し合い管理者は意識を高めるよう指導している。利用者一人ひとりの理解に努め、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心掛けて実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に意見を述べ、自己表現することを職員がささげることにはせず、むしろそうすることを促し、各人の思いや意向を汲み取るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団ケアと個別ケアを併用し、入居者1人ひとりのペースや希望を重視して生活していただくように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に來訪していただき、髪のカットをお願いしています。入浴時には入居者本人に更衣用の洋服を選んでいただきます。洗濯はこまめに清潔を心がけています。男性は入浴時に髭剃り施行しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食の好みを大切にしています。調理の工夫で、ホームに入所してから、嫌いな物を食べられるようになった方もいます。準備や片付けなど出来ることをお手伝いしていただいています。	食事の準備から後片付けまでの過程で本人ができることに参加してもらえるようにしている。出前や月1回のお楽しみ会の献立等利用者の希望を取り入れ食事を楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事量・水分量を記録しています。個々の体調や状況を把握し支援しています。献立を記録し食事の栄養が偏らないようにしています。必用に応じ食に関するアドバイスをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施しています。必ず職員が対応し確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、おむつ使用者はいません。各人の排泄能力に合わせてリハビリパンツ・布パンツを使用し、排泄の声かけや誘導・介助をしています。	各人の様子やペースにあわせ、必要に応じてトイレでの排泄を支援している。身体機能に対応し、自尊心に配慮した声掛けでさりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材の使用や適切な水分摂取量・体を動かすことなど配慮しています。特に便秘がひどい方は医師に受診・相談し、アドバイスを受けるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の方々が午後2時からの入浴が習慣として定着しており、楽しみにしています。個々の好みの湯温を考慮して入浴していただいています。入浴は完全個別対応実施しています。希望があれば入浴日でなくても対応しています。	入浴時はリラックスし会話も弾み職員は楽しく会話ができるよう心掛けている。順番についても希望を大切に相談しながら対応し、利用者の状況に合わせて足浴やシャワー浴を実施するなど柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の体調や希望に応じて休息をとっていただいています。就寝時間もそれぞれの希望にあわせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケア日誌のファイルに服薬の説明書を添付してあり職員が常時閲覧できるようにしてあります。服薬はその都度確認し記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来ることは自分でしていただく、自分から動いていただくよう促しています。家事なども出来ることを一緒にいただいています。レクリエーションは各人の希望や好みを順次取りれて実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭先や近隣の散歩を実施しています。四季折々の自然の美しさを見にドライブなども実施しています。ご家族の協力を得て、個人的な外出の支援をお願いしています。	玄関は鍵をかけずいつでも出入りができる環境を提供している。日常的には周辺の散歩やウッドデッキのベンチに腰を下ろし、外気に触れる機会を作り、家族の協力を得て4月には利用者・職員・家族の総勢45名での花見昼食会を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者各人は金銭は所有していません。入居料の心配を口にされる方にはその都度説明して、お金の有難さをお伝えしています。レクリエーションでお金計算を行なったりしていますが、難しいようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い状を書いてご家族・ご親族などに送っています。中にはお返事を下さる方もおり、利用者の喜びとなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は朝、それ以外は朝と夜に掃除を実施し、ホーム内が清潔で気持ちよい状態であるよう努めています。壁には季節感を取り入れた利用者の製作品を飾ったりしています。	広くゆったりと清潔で気持ち良い空間が保たれている。畳コーナーには掘りごたつが置かれ、ウッドデッキから続く庭の花壇には、ボランティアが手入れした色とりどりの花が咲き、「実り」と「味」を楽しめる菜園もあり季節の変化を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3つテーブルを配置し、各々の食事の際の席は決めてありますが、それ以外は自由に移動して過ごしていただいています。ソファやマッサージチェアなども配置してあり自由に使えるよになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の備品は、利用者本人とご家族で用意していただき配置していただいています。ご家族の写真などを自由に飾っていただいています。各居室担当を決めタンスやクローゼットの整理を一緒にするよう取り決めてあります。	十分な広さのある居室に、家族の協力のもと使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれ、家族の写真が飾られ、その人らしい生活空間が作られている。小物類はクローゼットに収納され清潔で整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口には手作りの表札を掲げ、「浴室」「トイレ」、また誘導の矢印等を表示してあります。ホールには余計なものは置かないようにし、いたるところに手摺りを備えています。		